

平成十六年十一月号

## ピッカピカ(?)の 自転車整理一年生

清水 武

朝六時。道路はまだ人通りも少ない。主人について散歩をしている犬に出会う。自宅から昭島駅南口の立体駐輪場まで歩いて十分、自転車で五分。

到着すると、まず掃除とその日の作業準備。前日の夜から残っている自転車の整頓。契約時間を過ぎた自転車への未収札付け。紙くずやゴミ、ペットボトルなども。タバコの吸殻が脇の道路まで落ちています。

始業は六時半。忙しくなるのは通勤客の増える七時過ぎから八時半頃まで。一時利用者への対応です。これに月末や月初は定期の利用者が更新手続をするので、何人もが並ぶといかに敏速に対応するかが勝負です。

電車の時刻に間に合わせるために、分、秒を急ぐ人。

「まだなの？」 なかにはイライラ感をあらわにする人も出てきます。そんな時、“朝は混むってわかっているんだから、その時間を見込んでもっと早目に家を出てくれればいいのに！”なんて内心思いかげながらも、そこは度量で。なにせ“お客さま”ですから最善のサービスを心がけるわけで

す。

「おはようございます！」。こちらが声をかける前に、向こうから大きな声で挨拶をしてくれる人がいます。こちらが挨拶をしても知らん顔の人もいます。なかには「いつもご苦労さまですねえ」と、旅行帰りのおみやげ菓子を届けてくれる婦人もいます。はからずも、いろんな人の断面が見られてこれも社会勉強かな、なんて。

駐輪違反の自転車も出てきます。小さな子供やお年寄りもやってきます。そんなとき、規則にのっとりながらも“正義感派”と“人情肌派”によって対応が少々異なってくるのも、人の心の反映でしょうか。

早番（A）が十時半まで、中番（B）が三時半まで、そして遅番（C）が八時まで。利用者への親切な対応とともに、一時利用の札、定期利用のシール等の在庫とお金が合っつてその番の仕事の完結となります。

六月に現場に就いたばかり。親譲りで、83歳にしてもう頭の上の方がピッカピカですが、それは作業帽が隠してしまつので、せめて“心を輝かせて”なんてガンバッてはいる“一年生”なのですが・・・。

